

平成30年度第1回岩手県後期高齢者医療広域連合運営協議会 要旨

- 1 開催日時 平成31年2月7日（木）午後2時00分から午後3時40分
- 2 開催場所 岩手県自治会館 4階第5会議室
- 3 出席委員 瀬川委員、吉田委員（代理：千葉氏）、加藤委員、佐藤委員、小野寺委員、鈴木委員、和田委員（代理：千葉（一）氏）、大黒委員、押切委員、細江委員、八重樫委員（代理：佐々木氏）
- 4 欠席委員 村松委員
- 5 傍聴者 2名

6 会議の概要

（1）説明

次の事項について、事務局から説明した。

ア 後期高齢者医療制度の動向等について

イ 後期高齢者医療広域連合の運営状況について

（2）主な意見・質疑等

（委員）

移動の関係から、高齢者の方が、病院に行きたくても行けないということが往々にしてある。自分で動けるとときには問題はなくても、家族に頼らざるを得ない場面や、それも難しい場合の対応について、介護の面でも同様であるが、単純に「健診を受診してください」と言っても現実には厳しい点について認識いただきたい。

（委員）

オーラルフレイルに関し、口腔機能が低下すると、むせや飲み込みなどで食べなかったりして、そののちにフレイル、要介護というふうな順番になることが想定され、フレイルの手前で食い止められることが望ましい。マンパワーの問題もあると思うが、この問題に力を入れていただきたい。歯科の健康診査も12%と10%以上はキープしているが、ここから低栄養につながることになるので、県内の歯科医やその他職種の方々と連携を図りながら改善していくことを期待する。

（委員）

後発医薬品の普及について、数年前に比べると今ではジェネリック医薬品への理解が進んできていると感じる。チラシ配布などの啓発活動は効果が見込まれ、今後も続けていただきたい。

重複多剤投薬者訪問指導について、実施人数が少ないと感じる。薬は診療とかかわってくるので、多いから少なくしてほしいとは一概には言えない部分がある。できればかかりつけ薬局やかかりつけ薬剤師などで、1か所からもらってほしいということがあるので、かかりつけ薬局というものをもっとアピールしていただきたい。

(委員)

一人当たり医療費について、岩手は46位でかなり低い、その要因の分析は。また単純に低いからよいのかというと、医療にかかりたくてもかかれないということがあれば、医療だけではなく介護の面など多方面から分析する必要があるのではないかと。

(事務局)

複数の要因が重なっていることと思われるが、盛岡近辺が高いということは、医療機関にかかりやすいということ、町村部では通いづらさがあるということは挙げられる。また県央部では精密機器が整備されており、検査中心の診療であれば高くなる面もあると考えられる。

(委員)

県内の歯科診療所数は非常に多く、全県でも680件くらいあり、通いやすい環境にあるということも歯科医療費が上がっている要因と考えられる。一方で、オーラルフレイルについて、KDBなどでデータ分析していただくと、歯科医療費が上がっているところは、医療費が下がっているという傾向にある。口腔部分が健康になると全身が健康になるので、医療費が下がるというデータがある。全体の医療費から見ると歯科医療費は微々たるものだが、歯科から薬剤や医科に絡んでくるということ。そういった歯科から分析する医療費データというものも有用である。

(委員)

一人当たりの医療費が低いということは、広域連合の財政運営上はよいことだと単純に考えてしまうこともあるが、地域的な格差が大きいことや、かかりたくてもかかれないという指摘を受けて、介護との関係を整理し、考察する必要性を感じた。

県全体としても、年齢構成別の死亡率や、三大疾患死亡率などが高くなっているという状況があり、単純に後期高齢者の医療費が低いことだけが喜ばしいことではない。

「保健事業と介護予防の連携」などの事業を通じて予防していくことが大事であるし、健康不明者に関する事業も含まれるということなので、ぜひ力を入れていただき、広域連合の財政運営の将来につながっていくということになると思うので、分析をしながら進めていただきたい。